

基本計画書

基本計画											
事項		記入欄						備考			
計画の区分		研究科の専攻に係る課程の変更									
フリガナ 設置者		ガッコウホウジン サンギョウイカダイガク 学校法人 産業医科大学									
フリガナ 大学の名称		サンギョウイカダイガク ダイガクイン 産業医科大学 大学院 (University of Occupational and Environmental Health, Japan, Graduate School)									
大学本部の位置		福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号									
大学の目的		産業医科大学（以下「本学」という。）は、教育基本法（昭和22年法律第25号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、医学及び看護学その他の医療保健技術に関する学問の教育及び研究を行い、労働環境と健康に関する分野におけるこれらの学問の振興と人材の育成に寄与することを目的及び使命とする。 産業医科大学大学院は、本学設立の目的及び使命に基づき、医学及び看護学その他の医療保健技術に関する学問の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展並びに労働環境と健康に関する分野における医学及び看護学その他の医療保健技術の進展と社会福祉の向上に寄与することを目的とする。									
新設学部等の目的		産業衛生学専攻博士後期課程は、産業衛生学上の課題に対して、自らが主体的に産業衛生学上の問題の本質を見極め、解決のための手法を開発し、導き出された科学的根拠を基に適切な労働衛生管理を行うことができるきわめて専門性の高い研究者、すなわち自らが主体的かつ積極的に産業衛生学の課題に取り組み、解決する能力を有する人材を養成するとともに、わが国における産業衛生学分野の研究を推進することをめざす。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部等】 医学部 医学科 産業保健学部 看護学科 環境マネジメント学科 医学研究科 産業衛生学専攻（修士課程） 14条特例の実施 昼夜開講の入学定員を分けていない		
	医学研究科 [Graduate School of Medical Science] 産業衛生学専攻 [Occupational Health] 博士後期課程 [Doctor course]	3年	5人	—人	15人	博士 (産業衛生学)	平成28年4月 第1年次	福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号			
	計		5人	—人	15人						
	同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	なし									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
	医学研究科 産業衛生学専攻 (博士後期課程)	講義 1科目	演習 6科目	実験・実習 0科目	計 7科目	10単位					
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等		
	新設分			教授	准教授	講師	助教	計		助手	
		医学研究科 産業衛生学専攻（博士後期課程）		12人 (12)	3人 (3)	7人 (7)	0人 (0)	22人 (22)		0人 (0)	0人 (0)
		計		12人 (12)	3人 (3)	7人 (7)	0人 (0)	22人 (22)		0人 (0)	—人 (—)
	既設分	医学研究科 医学専攻（博士課程）		30人 (34)	27人 (27)	14人 (14)	1人 (1)	72人 (76)		0人 (0)	0人 (0)
		医学研究科 産業衛生学専攻（修士課程）		16人 (16)	2人 (3)	6人 (6)	0人 (0)	24人 (25)		0人 (0)	38人 (38)
		医学研究科 看護学専攻（修士課程）		7人 (7)	4人 (4)	4人 (4)	1人 (1)	16人 (16)		0人 (0)	38人 (38)
		計		53人 (57)	33人 (34)	24人 (24)	2人 (2)	112人 (117)		0人 (0)	—人 (—)
		合計		53人 (57)	34人 (34)	25人 (25)	2人 (2)	114人 (118)		0人 (0)	—人 (—)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体				
	事 務 職 員		230 人 (230)	0 人 (0)	230 人 (230)					
	技 術 職 員		1,022 (1,022)	0 (0)	1,022 (1,022)					
	図 書 館 専 門 職 員		6 (6)	0 (0)	6 (6)					
	そ の 他 の 職 員		46 (46)	0 (0)	46 (46)					
	計		1,304 (1,304)	0 (0)	1,304 (1,304)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	13,682㎡	0㎡	0㎡	13,682㎡					
	運 動 場 用 地	43,544㎡	0㎡	0㎡	43,544㎡					
	小 計	57,226㎡	0㎡	0㎡	57,226㎡					
	そ の 他	169,483㎡	0㎡	0㎡	169,483㎡					
	合 計	226,709㎡	0㎡	0㎡	226,709㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	専 用					
		48,183㎡ (48,183㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	48,183㎡ (48,183㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	21 室	14 室	23 室	2 室 (補助職員0人)	1 室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		医学研究科 産業衛生学専攻 (博士後期課程)		26 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	専攻単位での 特定不能なため 大学全体の数	
	医学研究科 産業衛生学専攻 (博士後期課程)		122,304 [41,625] (121,114 [41,514])	325 [199] (325 [199])	195 [195] (195 [195])	4,609 (4,609)	40,932 (40,932)	71 (71)		
	計		122,304 [41,625] (121,114 [41,514])	325 [199] (325 [199])	195 [195] (195 [195])	4,609 (4,609)	40,932 (40,932)	71 (71)		
図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体 での共用分	
		2,480㎡		196		206,667				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		2,130㎡		武道館（弓道場、武道場）、屋内温水プール						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子 ジャーナル・デー タベースの整備費 (運用コストを含 む)を含む。 大学全体
		教員1人当り研究費等		450千円	450千円	450千円	－	－	－	
		共同研究費等		19,000千円	19,000千円	19,000千円	－	－	－	
		図 書 購 入 費	56,990千円	56,990千円	56,990千円	56,990千円	－	－	－	
		設 備 購 入 費	274,000千円	274,000千円	274,000千円	274,000千円	－	－	－	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		818千円	536千円	536千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			産業医学助成費補助金、手数料収入、寄付金、 補助金、資産運用収入、事業収入、雑収入 等							

大 学 の 名 称	産業医科大学								所 在 地	
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度		
既 設 大 学 等 の 状 況	医学部	年	人	年次 人	人		倍			
	医学科	6	105	—	630	学士 (医学)	1.00	昭和53	福岡県北九州市八幡 西区医生ヶ丘1番1号	
	産業保健学部						1.00			
	看護学科	4	70	—	280	学士 (看護学)	0.99	平成8	福岡県北九州市八幡 西区医生ヶ丘1番1号	
	環境マネジメント学科	4	20	—	80	学士 (保健衛生学)	1.02	平成16	〃	
	大学院医学研究科						0.67			
	医学専攻 (博士課程)	4	40	—	160	博士 (医学)	0.58	平成25	福岡県北九州市八幡 西区医生ヶ丘1番1号	
	産業衛生学専攻 (修士課程)	2	10	—	20	修士 (産業衛生学)	1.10	平成26	〃	
	看護学専攻 (修士課程)	2	5	—	10	修士 (看護学)	1.10	平成26	〃	
	生体適応系専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学)	—	昭和59	〃	平成25年度より 学生募集停止
	環境・産業生態系専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学)	—	昭和59	〃	〃
	障害機構系専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学)	—	昭和59	〃	〃
	生体情報系専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学)	—	昭和59	〃	〃
附 属 施 設 の 概 要	名 称 : 産業医科大学病院 目 的 : 付属病院 所 在 地 : 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号 設置年月 : 昭和54年7月 規 模 等 : 建物面積 53,809.16㎡									
	名 称 : 産業医科大学若松病院 目 的 : 付属病院 所 在 地 : 福岡県北九州市若松区浜町一丁目17番1号 設置年月 : 平成23年4月 規 模 等 : 建物面積 12,828.01㎡									
	名 称 : 産業生態科学研究所 目 的 : 産業医学を専門的に研究・教育する付属研究所 所 在 地 : 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号 設置年月 : 昭和61年4月 規 模 等 : 建物面積 6,453.11㎡									
	名 称 : 産業医実務研修センター 目 的 : 産業医等の教育・修練を行う研修センター 所 在 地 : 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号 設置年月 : 平成3年4月 規 模 等 : 建物面積 5,179.80㎡									

学校法人産業医科大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成27年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成28年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
産業医科大学					産業医科大学				
医学部					医学部				
医学科	105	—	630		医学科	105	—	630	
産業保健学部					産業保健学部				
看護学科	70	—	280		看護学科	70	—	280	
環境マネジメント学科	20	—	80		環境マネジメント学科	20	—	80	
計	195	—	990		計	195	—	990	
産業医科大学大学院				→	産業医科大学大学院				
医学研究科					医学研究科				
医学専攻（D）	40	—	160		医学専攻（D）	40	—	160	
看護学専攻（M）	5	—	10		看護学専攻（M）	5	—	10	
産業衛生学専攻（M）	10	—	20		産業衛生学専攻（M）	10	—	20	
（修士課程）					（博士前期課程）				
					<u>産業衛生学専攻（D）</u>	<u>5</u>	—	<u>15</u>	課程の変更 （認可申請）
					<u>（博士後期課程）</u>				
計	55	—	190		計	<u>60</u>	—	<u>205</u>	

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(大学院医学研究科 産業衛生学専攻 博士後期課程)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通 科目	産業衛生学特論	1通	2			○			12	3	7			オムニバス・共同(一部)
	小計（1科目）		2	0	0	－			12	3	7	0	0	
専門 領域 科目	職業病態学特別論文指導	1～3通		8			○		2	1				
	産業健康科学特別論文指導	1～3通		8			○		3		1			
	有害業務管理学特別論文指導	1～3通		8			○		2	1				
	産業疫学・医学概論特別論文指導	1～3通		8			○		2	1	1			
	産業衛生工学特別論文指導	1～3通		8			○		1		2			
	産業保健マネジメント学特別論文指導	1～3通		8			○		2					
	小計（6科目）	－	0	48	0	－			12	3	4	0	0	
合計（7科目）		－	2	48	0	－			12	3	7	0	0	
学位又は称号		博士（産業衛生学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係（看護学関係） 保健衛生学関係（看護学関係及び リハビリテーション関係を除く。）						
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法								授業期間等						
本学大学院医学研究科産業衛生学専攻博士後期課程に3年以上在学し、 所定の授業科目を10単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受け たうえ学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。								1学年の学期区分			2期			
								1学期の授業期間			15週			
								1時限の授業時間			90分			

授 業 科 目 の 概 要			
（大学院医学研究科産業衛生学専攻博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	産業衛生学特論	（概要） 職業性疾患、メンタルヘルス、健康保持増進、有害性要因の解明など様々な産業衛生上の課題をテーマとした研究発表を行う討論会を通して、その研究課題、背景、結果の整合性と妥当性、考察の正当性などに対して多面的解析する基礎的論理構成、考察の仕方を養う。これらを通して、様々な産業衛生上の課題に対する科学的解決につながる思考性、つまり、学術論文の作成のための基礎的思考能力を養う。 （オムニバス方式/15回） （1 森 本 泰 夫/1回） 産業衛生学の概要：職業性疾患や作業関連疾患の予防や就業との関連、労働衛生管理のあり方など総括的に議論する。 （1 森 本 泰 夫・2 河 井 一 明・ 13 和 泉 弘 人/2回） 職業病態学領域の課題とその解決法：職業性疾患における病態やその機序に関する仮説、方法論、科学的解析、結論を導く思考性を検証し、思考過程を理解する。 （6 大 神 明・7 岡 崎 龍 史・ 14 盛 武 敬/2回） 有害業務管理学領域の課題とその解決法：作業環境における有害物質の物理化学的特性を解析するための仮説、方法論、科学的解析、結論を導く思考性を検証し、思考過程を理解する。 （① 藤 野 昭 宏・② 中 田 光 紀・ ③ 中 谷 淳 子・④ 高 波 利 恵/2回） 産業疫学・医学概論領域の課題とその解決法：職業関連疾患、職業性疾患における健康管理、生活習慣、生活環境のあり方を解析するための仮説、方法論、科学的解析、結論を導く思考性を検証し、思考過程を理解する。 （3 三 宅 晋 司・4 廣 尚 典・ 5 大 和 浩・16 庄 司 卓 郎・ 17 道 下 竜 馬/2回） 産業健康科学領域の課題とその解決法：社会的にニーズの高い産業衛生学上の課題に対して、仮説、方法論、科学的解析、結論を導く思考性を検証し、思考過程を理解する。 （10 保 利 一・19 石 田 尾 徹・ 20 石 松 維 世・21 笛 田 由 紀 子/2回） 産業衛生工学領域の課題とその解決法：実際の作業環境における個々の課題に対して仮説、方法論、科学的解析、結論を導く思考性を検証し、思考過程を理解する。 （11 森 晃 爾・12 伊 藤 昭 好・ 22 梶 木 繁 之/2回） 産業保健マネジメント学領域の課題とその解決法：実際のマネジメントにおける個々の課題に対して、仮説、方法論、科学的解析、結論を導く思考性を検証し、思考過程を理解する。	オムニバス 方式・ 共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（大学院医学研究科産業衛生学専攻博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	産業衛生学特論	① 藤 野 昭 宏/2回) 産業衛生における倫理：疫学調査・動物試験等における倫理的配慮、問題点を紹介し、産業保健の現場に潜む様々な倫理的問題や課題を検討する。	
専門 領域 科目	職業病態学 特別論文指導	（概要） 研究テーマにおいて得られた結果を、自らが主体的に、データの妥当性や信頼性を検証し、問題の分析、調査、論理的思考能力を養う。このような過程を繰り返して研究のまとめを行う。論文の執筆においては、論文の独創性・科学的意義を遂行しつつ、結果から導き出された新たな事実を検証し、完成させる。これらを通して自ら科学的に問題を発見し、解決する能力を養成する。 （1 森 本 泰 夫） 様々な職業性肺疾患の肺障害の特徴や炎症・線維化を含めた多岐にわたる発生機序や病態生理を自らが主体的に検討させ、自らが研究テーマや研究の意義を見いだせるように指導する。また、研究テーマにおける分子生物学的アプローチの意義を検討させ、カンファレンス、抄読会等を介して研究テーマの科学的意義の更なる検証を図り、プレゼンテーションやコミュニケーション能力の更なる充実化を図る。実験により得られた結果と様々な職業性肺障害の特徴等の整合性等を主体的に検証させ、科学的論理思考が十分に養成できるよう指導を行う。 （2 河 井 一 明） 職業・環境発がんの予防をテーマに、発がん物質の検出や発がん要因の抽出、発がんメカニズムの解明の為の研究を自ら計画・立案し実施できる知識と能力を身につける。加えて、職業的発がんのリスク評価・マネージメントを実施・指導できる能力を習得する。さらに、研究結果を社会に向けて公表できる素養として、その独創性・科学的意義を考慮した学術論文を独自に執筆できる能力の獲得とプレゼンテーション及びコミュニケーション能力の向上を図る。 （13 和 泉 弘 人） 肺がんや悪性胸膜中皮腫を中心に悪性肺腫瘍の発生原因とその予防についての基本的な考え方を学び、職業性肺疾患に関わる研究テーマを自主的に決める。研究テーマに関わる生命現象を、ゲノム科学の観点から情報を収集分析し、自ら新たな仮説を立てる。仮説を実験で検証するために分子生物学的手法を習得する指導と結果を解釈する力を育てる指導を行う。仮説の検証を繰り返すことで生命現象の真理を科学的に議論し基本原理の発見を目指す重要性を学ぶ。また、論文紹介や論文作成などを通して「結果」は事実であり「考察」は事実に基づく推論であることを学ことでプレゼンテーション能力を高める指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
（大学院医学研究科産業衛生学専攻博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	産業健康科学 特別論文指導	（概要） 労働者のwell-beingやメンタルヘルス、身体的な体力に関する問題点を自ら探し出し、それを最適化・改善することに関するテーマを自ら見だし、先行研究を参照しながら独自の研究方法を立案し、かつ、実践し、得られた結果を主体的に評価する論理的思考能力を養う。最終的には、査読のある科学雑誌に投稿する論文作成能力を養成する。 （3 三 宅 晋 司） ひとを評価する主観的、生理的手法を学ばせ、それらを用いた実験研究が行える能力を身に付けさせ、その結果を国際的学術雑誌へ掲載できる論文を作成できるように指導を行う。具体的なテーマとして、作業負荷・負担、精神的ストレス等による生理的变化を捉え、それをどう評価するかを検討させる。また、それらへの対策としてどのようなことが考えられるかを心理生理学的実験に基づいて検討させる。これらの研究活動を通して、物事の本質を見抜く科学的かつ論理的思考方法を養えるように指導する。 （4 廣 尚 典） 職場で見られるメンタルヘルス不調の関連因子について、既存のモデルを熟知した上で、心理社会的ストレス、疲労を中心として主体的に探索し、それを論理的に表現することを学ばせる。また、カンファレンス、抄読会等を活用して、自らの研究テーマに関する検討のさらなる深化を図り、また関連領域を中心としたプレゼンテーションやコミュニケーション能力を高める。 これらを通して、実際の職場で起こっている、あるいは新たに発生するメンタルヘルス関連の問題に対して、科学的な視点から現状を分析し、適切な手法によって問題を解決するとともに、類似問題の発生予防に向けた活動計画を策定する中心的な役割を担えるよう指導を行う。 （5 大 和 浩） わが国全体の高齢化は労働者人口の高齢化につながっている。定年を65歳まで延長・廃止する企業が増え、中高年労働者における高血圧や糖尿病などの非感染性疾患（生活習慣病）の予防のみならず、基礎体力を保持・増進させる取組の重要性が高まってきている。一方、身体活動の小さい第3次産業が増加し、また、第1次、第2次産業においても機械化が進んだことにより、労働に伴う身体活動は減る一方であり、職場における健康保持増進対策は重要である。 職域における健康保持増進対策として、まず、デスクワークの労働者を想定して、通勤や休憩時間を利用して無理なく実行出来る身体活動を増加し、筋肉の強化する方法に関する基礎知識を身につける。また、すべての労働者が休日を利用して、各人の体力に合わせて安全に実行出来る身体活動の強度の設定に関する知識を身につける。 最終的には、産業保健スタッフとして職場全体の健康保持増進プログラムを企画・立案し、それを実行し、評価し、さらにより良いプログラムにしていく中心的な役割を担えるよう指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
（大学院医学研究科産業衛生学専攻博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	産業健康科学 特別論文指導	（17 道 下 竜 馬） 運動は肥満の予防に有効であるだけでなく、高血圧の治療、脂質異常症の治療、糖尿病の運動療法としても有効であることは広く知られているが、実際に週2回以上の運動を習慣的に実施している者の割合は約40%しかない。まず、運動に関する行動変容モデルを理解し、実際の職場で運動不足の人達を対象として、運動習慣を有する者を増やすためのプログラムを立案し、その効果を評価すること、さらに、より良いプログラムに改善することが出来る能力を身につけることができるように指導を行う。	
	有害業務管理学 特別論文指導	（概要） 有害業務管理における作業関連疾患及び放射線を中心とした職業性疾患予防について、自ら研究テーマを見出し、得られた結果について、データの妥当性や信頼性を検証し、問題の分析、調査、論理的思考能力を養う。論文の執筆においては、論文の独創性・科学的意義を基本として、結果から導き出される新たな事実を発見し、纏め上げる能力を養成することに力点を置く。 （6 大 神 明） 様々な要因によって引き起こされる作業関連疾患について、対象となる範囲とその疾患の基本的な病態、就業との関連、発症及び進展予防に資する対策について理解し、労働者への作業関連疾患発症を未然に防ぐための現場での有効な対応並びに教育の方法を指導する。特に作業現場での、作業管理・作業環境管理・健康管理の各管理に基づいて、論理的かつ系統的なデータ取得方法について、カンファレンスや抄読会などを通じて指導を行う。また、国内外の学会発表の参加を積極的に奨励し、プレゼンテーションスキルの向上を図る。 （7 岡 崎 龍 史） 放射線衛生学における放射線被曝の歴史と今後東京電力福島原子力発電所事故並びに廃炉作業に携わる従業員の低線量放射線被曝の影響について考えていく上で、具体的に出たデータをまとめ、放射線影響を論理的に解析できるように指導する。放射線障害に関するカンファレンス、抄読会等を介してプレゼンテーションやコミュニケーション能力の更なる充実化を図るとともに、自身の研究テーマと様々な放射線障害の特徴等の整合性等を主体的に検証させ、報告書や論文における考察する能力を養う。研究テーマにおいて得られた結果のまとめ方の論文作成を主体的に行なわせ、科学的論理思考が十分に養成できるよう指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
（大学院医学研究科産業衛生学専攻博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	有害業務管理学 特別論文指導	（14 盛 武 敬） 医療現場における労働者である医師・看護師・その他 コメディカルの被曝は、ほとんどが照射対象物である患 者からの散乱線によるため、被曝低減のためには患者の 医療被曝を把握することから始めるのが良い。ここでは 実際の医療現場に足を運び、被曝の問題点を実感するこ とから始め、より具体的に被曝を低減・管理する手法を 考案し、さらに考案した仕組みを医療の中に実装するこ ろまでを行う。関連する文献を読み込み、自ら問題点 を掘り起こして解決策を導き、成果を内外に報告する技 術を身につけるのはもちろんであるが、ものづくりに関 する企業との共同研究を通じて工程管理、特許出願、研 究資金獲得などのプロジェクトマネジメントができる 人材を養成する。	
	産業疫学・ 医学概論 特別論文指導	（概要） 自らの疑問に基づき研究計画を立案し、データを収集 し、論文の作成を行い、投稿、受理までの個別指導を行 う。他の院生や教員からもコメントやアドバイスをもら いながら、講座内や学会で研究内容を発表する。これら を通して自ら科学的に問題を発見し、解決する能力を養 成する。 （① 藤 野 昭 宏） 働く人の健康の文化的価値観を生命倫理学、医療人類 学及び質的研究の観点から検討できるよう指導する。具 体的には、産業メンタルヘルスにおける職場復帰のため のリワークシステムの構築など、働く人の心身の健康を 支援するための産業保健システムについて、生命倫理学 的・医療人類学的アプローチを踏まえた半構造化面接等 によるインタビュー調査を行い、精度の高い質的研究が できる能力を養う。また、指導教員とのカンファレンス を通して、高度な学術的プレゼンテーション能力やコ ミュニケーション能力を充実させ、最終的には倫理観を 有した研究者として自立できるよう指導する。 （② 中 田 光 紀） 仕事と関連する精神・身体的障害の発症機序や要因を 明らかにし、それらの予防方法について主体的に検討で きるよう指導する。具体的には、疫学的ストラテジー （ハイリスクアプローチやポピュレーションアプロ ーチ）を中心に社会疫学的な考え方や産業精神保健心理 学・組織心理学・保健統計学の最新知識を動員し、包括 的・学際的なアプローチができるよう養成する。また、 研究や教育において研究者だけでなく、実務者や政策立 案者を説得できるプレゼンテーション能力やコミュニ ケーション能力の向上を図り、最終的には独立した予防 医学研究者として自立できるよう指導する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（大学院医学研究科産業衛生学専攻博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	産業疫学・ 医学概論 特別論文指導	③ 中 谷 淳 子 働く人々の心身の健康の保持増進を図るための高度な産業保健活動実践能力の習得・開発ならびに産業衛生学の発展に寄与する人材の育成を目指す。指導にあたっては、看護学の視点として、対象となる個人の生活背景や価値観を尊重しQOLの向上を重視した支援を行うことや多方面とのコーディネート機能、また保健学の視点として、コミュニティ（地域、集団、組織）を分析し自主活動を促す機能等の視点を取り入れる。また、学生間・学生教員間のディスカッションを通して、産業衛生学に必要な学際的視点、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、論理的思考力を養成し、最終的には独立した研究者として自立できるよう指導する。 ④ 高 波 利 恵 効果的な産業保健活動を展開する上で必要な科学的根拠を明らかにするための研究能力の獲得を目指す。そのために人・集団・組織・地域の特徴をとらえる能力、当事者とともに、目指すQOLを明らかにし、行動科学等を活用して産業保健活動をPDCA展開できる能力を養成する。産業保健活動の展開において事業場の特徴をとらえる際には、経営や業務への理解を深めることができることを意図する。また、カンファレンスや抄読会等を通して、他者の意見をもとに科学的・論理的思考ができる能力、プレゼンテーション能力を養成する。さらに、職場の産業保健活動支援者としての倫理観を養成する。	
	産業衛生工学 特別論文指導	（概要） 選択した研究テーマについては自らが主体的に取り組むが、研究の内容については担当教員と常に議論しながら進める。データの妥当性や信頼性についてはその都度検証し、得られた結果について深く考察することを繰り返すことにより、論理的思考能力を養う。最終的には成果を論文としてまとめるが、執筆においては、独創性、産業衛生学的意義を考えながら進め、論文を完成させる。これらを通して、産業衛生工学的見地から問題を発見し、解決できる能力を養成する。 （10 保 利 一） 作業環境中に存在する有害因子から労働者を守るための工学的手法について、自ら主体的に検討させるとともに、科学的な論理思考ができるように指導する。労働現場に存在する有害因子の予測、認識、評価、制御に関連する産業衛生工学的な内容の研究テーマを選択させ、テーマに関連する実験やフィールド調査等を通じて得られたデータをゼミ形式で検討するとともに、カンファレンス、抄読会、さらに学会発表等を介してプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の充実を図る。これらを通じて得られた研究成果を論文としてまとめさせることにより、科学的なものの考え方や論理的思考が十分に養成できるよう指導する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（大学院医学研究科産業衛生学専攻博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	産業衛生工学 特別論文指導	（19 石田 尾 徹） 作業環境中に存在する有機溶剤蒸気などの化学物質から労働者を守るため、自ら主体的に検討させるとともに、科学的な論理思考ができるように指導する。化学物質の環境中への発生機序や原因の分析、環境中での挙動の計測法、予測法の開発、除去するための工学的手法等をゼミ形式でディスカッションを重ねながら検討し、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の充実を図る。得られた結果を論文としてまとめさせることにより、科学的なものの考え方や論理的思考が十分に養成できるよう指導を行う。 （20 石 松 維 世） 作業環境中に存在する生物因子（微生物等）から労働者を守るため、目的に応じた微生物の測定方法や評価方法を含めた総合的な対策について、自ら主体的に検討させるとともに科学的な論理思考ができるように指導する。労働現場に存在する生物因子の認識、評価、対策に関連する研究テーマを選択させ、実験やフィールド調査等を通じて得られたデータをゼミ形式で検討するとともに、カンファレンス、抄読会、さらに学会発表等を介してプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の充実を図る。研究テーマへの取り組みを通して得られた研究成果を論文としてまとめさせることにより、科学的なものの考え方や論理的思考が十分に養成できるよう指導を行う。	
	産業保健 マネジメント学 特別論文指導	（概要） 特定の事例を対象とした議論を行うとともに、研究計画の立案や遂行、結果の分析について本人の主体的な検討を指導し、研究の全般的な遂行能力を養う。論文の執筆においては、論文の独創性・科学的意義・社会的意義を遂行しつつ、結果から導き出された新たな事実を検証し、完成させる。 （11 森 晃 爾） 事業場に存在する様々な健康障害リスク等の産業保健ニーズに対して、産業衛生学上のエビデンスとマネジメント手法を用いた問題解決の方法を主体的に検討させ、さらにそれらを一般化した研究課題として明確にするための科学的論理思考ができるように指導する。自身の研究テーマについて、得られた研究結果と既存の知見を主体的に比較検討させ、論文作成を主体的に行なわせることによって、十分な科学的論理思考をもとに考察する能力を養う。また、産業保健マネジメントに関するカンファレンス、抄読会等を介してプレゼンテーションやコミュニケーション能力の更なる充実化を図る。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科産業衛生学専攻博士後期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	産業保健 マネジメント学 特別論文指導	(12 伊 藤 昭 好) 産業保健リソースが不足しがちな中小規模事業場や、安全衛生担当者が短期間で交代することの多い自治体事業場を研究対象に取り上げ、それぞれ産業保健ニーズの特徴を主体的に検討させ、他の同様な事業場へ普遍化するための研究課題を抽出できるように指導する。とりわけ研究テーマにおいて、労働安全衛生マネジメントシステムを構築する上での参加型安全衛生活動アプローチの意義を検討させ、カンファレンス、抄読会、現場調査等を介してプレゼンテーションやコミュニケーション能力の更なる充実化を図る。	